

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 4 月 24 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3471300248		
法人名	因島汽船 株式会社		
事業所名	グループホーム 花園 4階		
所在地	広島県尾道市因島土生町1460番地4		
	電話番号	0845-22-2525	
自己評価作成日	令和4年 12月 8日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 5 月 8 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 6 年 4 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

- ・新型コロナウイルス感染症を予防しながら、新しい日常生活を皆さんと共に取り入れている
- ・目の前には瀬戸内海が広がり、船の往来や島々の季節の移り変わりも感じられると共に生活空間でも季節が感じられるようにしている。
- ・夕日がとても綺麗な場所に立地している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

目の前には穏やかな瀬戸内海やその先の緑豊かな島々の風景が広がり、時折、船の往来もみられ、その景色は圧巻である。そのような恵まれた環境の中で穏やかに過ごされている。当事業所は複合施設(デイサービス・有料老人ホーム)の一角にあり、職員研修や防災訓練等も合同で行い共に協力し、それぞれの利用者の安全に繋がられている。又、独自の理念「家庭的な雰囲気を大切に笑顔で楽しい生活ができるお手伝い、職員は生活のパートナー」を掲げられていると共に自分の家で生活している様な環境づくりを目指し日々実践に向け取り組まれている。また、一人ひとりに寄り添い、思いを受け止め、自分らしく、一日を大切に過ごしてもらう事と共に何事も急がさず、できる事はそっと見守り、できない事はそっと手助けし、その人の機能維持継続に繋げるよう努め、常にその人のペースを大事にされ利用者本位の支援を心掛けている。医療面に関しても、それぞれの主治医との連携も構築され24時間指示も得られ安心である。また、かかりつけ医や他科に対しても通院支援は事業所が行い日々の状況も的確に伝え常に適切な医察が受けられる体制作りで安心である。又、コロナ禍の為、家族の訪問も制限があるが訪問依頼には柔軟に対応し、家族との絆が途切れない支援を心掛けていくと共に毎月、日々の様子を書面と写真を添えて報告し、現状を理解して頂くと共に安心感に繋げている。職員間の協力体制も良く、利用者本位の暮らしのパートナーとなる様全職員が一丸となり取り組まれている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示板に貼ることにより、いつでも見られる状態にしている。	職員で考えられた理念を誰もが見え易い玄関に掲示し、見る事で再認識し、振り返る機会と反省に繋げ、日々実践に向け取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、外部方との交流が出来ていない状況にある。	コロナ禍の為、地域行事の中止も多く、また、通所介護の利用者との交流もできていないが時折、民生委員の方から声かけがありその際には現状を伝え、状況把握してもらおうと共に地域の情報も得られ、できる範囲で地域との交流が途切れない努めている。トライアスロン大会に参加している方へ応援メッセージを送られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験実習、高校生・社会人等のボランティアを受け入れている。尾道福祉専門学校からの実習要請の受け入れ体制もある。要望があれば小学校へのお出前授業も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、開催出来ず。	定期的な開催はできていないが、状況が少し良くなった時には開催し、家族(5名)地域の住民、民生委員、包括職員等の参加の下、現状や取り組み、又、コロナ状況について広範囲に報告し、立場の違う方々の意見や家族の意見等も得られ、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	尾道市からのメール等の情報を取り入れながら分からない場合などは電話にて問合せしている。	行政からのメールが届いた際に理解ができない事があれば電話で相談すると共に現状についても報告し、協力関係を築く様努めている。包括支援センターの職員との連携は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設で行う年間定例研修で身体拘束廃止を全職員に周知させている。拘束以外の代替策を職員で検討するようにしている。	身体拘束は基本しない方針である。3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を実施し、リスクに対する検討や対策について話し合っている。話し合った内容は職員へも報告している。また、職員間で気付いた時には注意し合い、抑圧や制止しない支援を心掛けている。研修も年2回行い、全職員正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を開催し、その内容を議事録にて職員に徹底させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍のため、研修会など実施出来ていないので、来年度に開催予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書にある各項目、利用料、介護サービスの内容、職員配置等の説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階の受付に苦情、相談箱を設置しており、面会時や電話でも意見等の交換を行っている。	コロナ感染予防の為、家族の訪問も制限がある。訪問依頼に対しては玄関の窓越しでお会いしてもらい、その際に現状について報告する中で意見を聞く様努めていると共に、毎月書面にて現状を報告し、その際にも意見の把握に努め、色々な場面での意見等は反映させている。写真も送付し元気な姿を見てもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間2回の人事考課で、今期の目標を掲げて個々に面接を実施、評価により昇格制度がある。	日頃気付きがあればその都度聞いている、また、ミーティングや会議、申し送り等でも聞く機会を持っている。また、問いかける事あり、職員の意見は大切にされ反映させている。個人面談もあり、その際にもメンタル面を含め意見や提案の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間2回の人事考課で、今期の目標を掲げて個々に面接を実施、評価により昇格制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため、施設内で気づいた事を個別トレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等の情報を参考にして、サービスの中に取り込んだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて本人からの要望や、不安なことなど聞いている。入居後は生活上の問題点、要望、不安になった事など、日々の生活の中で聞いたり察知しながら人間関係や環境作りをいっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族から家で困っている事や、グループホームで出来ることを伝えながら、受入れ準備が出来た後に入居してもらい、日々の生活の中での出来事を家族に報告・相談しながら解決に向けて、共に支合う関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画を立案する中で、今困っていることや不安なことを傾聴し、過去の生活歴や現在の精神的、身体的な状況を把握して計画書を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員の関係は運営理念にある、生活のパートナーと位置づけてあり、共に支えあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の暮らし振りや体調面、精神面の変化などの情報を家族に報告して一緒に改善策や支援の方法などを話し合うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、最低限の面会や外出となっているが面会はガラス越しでマスクを外し、しっかり表情を見ながら会話出来るように工夫し、支援に努めている。	コロナ感染予防の為、馴染みの場所等には出かける事は出来ないが、中には馴染みの病院を利用されている方はいる。又、家族の訪問も制限があるが、依頼に対しては柔軟に対応し、ガラス越しでお会いして頂き、少しでも家族との絆が途切れない支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が食堂に集まっている際は、状況を見て職員が間に入り会話の援助を行い、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退居したあとも、家族等からの相談があればそれに応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人がしたいことや希望する事の把握に努めている。意思の疎通が困難な方には家族から情報を得るようにしている。	ケアの中での会話、個別対応時の入浴、居室等での忌憚のない話から汲み取る事もあり、食べ物、飲み物、帰宅願望等の要望が出る。食べ物に対しては給食会議の中で検討し、意向に沿う様努めている。口頭で言われる方もいる。表出困難な方には生活歴や家族の協力を得、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談で本人の生活歴や趣味や人間関係、好き嫌いなどを本人や家族から聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活リズムを観察し、特記事項などは生活記録簿に記録して、それを基にホームでのより良い生活が出来るように活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で利用者の生活態度等を観察し、本人や家族の思いも聞いてサービス担当者会議でアセスメント、カンファレンスを行い介護計画書の作成を行っている。	家族、本人の希望、主治医の所見、日々のケアの中でのニーズや課題等について職員の意見を基に担当者会議で検討し、柔軟且つ現状に即した計画を作成している。見直しは半年、モニタリングは毎月。担当者会議には利用者も参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、生活記録簿、申し送りノートに毎日記録。職員は全員その情報を確認している。その情報を基に計画書の作成や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週間予定や月刊行事などの計画を作成しているが、今日はこれがしたいとの希望があれば、臨機応変の対応もある程度は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域協働は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科医や緊急指定病院などの協力医療機関や、本人のかかりつけ医院で十分な医療が受けられる仕組みがある。	協力医療機関の往診が月2回、訪問歯科支援もある。かかりつけ医や他科(眼科、皮膚科等)の通院支援も事業所が対応され、医師との連携をとり、常に適切な医療が受けられる様取り組まれている。協力医も24時間指示が得られ安心である。特記事項がある方は即家族に報告され、他の方に関しても毎月書面で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置して毎日の健康管理を行っている。健康面に異変があるときは、病院受診や電話で主治医に指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設で作成している看護添書や、健康管理表、ADLが記載してある資料を病院側に提示している。入院中も容態の把握のため医師や担当の看護師・地域連携室と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応や指針・看取りに関する方針を文章にし、本人や家族に説明し同意を得ている。終末期のケアも主治医・家族との協力により実施している。	利用開始時、終末期に向けた方針について指針を基に説明し、理解は得られているが重度化した場合には主治医、家族、事業所等で再三にわたり、話し合い、その都度、家族の意向を確認し、家族の思いに沿い、三者で方針を共有し、家族や主治医の協力を得チームで支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを職員と確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応マニュアル作成している。避難訓練・災害訓練は利用者職員で年2回実施している。	年2回、津波、火災等の訓練を実施し、慌てず速やかに対応できる様、個々の実践力を身につける様取り組まれている。日中、夜間を想定され、近隣のガソリンスタンドへの協力依頼もされていると共に運営推進会議等でも依頼され地域の協力体制強化に取り組まれる。施設全体でされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルに基づいて、施設内で研修を実施している。利用者の気持ちを大切に考えてのケアを大切にしている。	人生の先輩であり、目上の人という事を念頭に、個々の尊厳を大切に声かけや対応をするよう周知されている。職員間で気付いた時には注意し合い、確保に努めている。研修も実施している。書類に関するものに保管している。知り得た情報も漏らさないと言う事も徹底している。馴れ合いになっても節度ある対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりの状態に合わせて、本人が答えやすく、選び易いような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活のペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。その日の様子を見ながら、本人の希望を聞いたり相談しながら過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型等は個別に美容師としっかり話をしてカットをしてもらい、洋服も好みのものを着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々に応じた嗜好・食事形態にし、利用者の意見を取り入れた献立にしている。食器の片づけ等、一緒に行える作業は協力しながら行っている。	トロミ、ミキサー、キザミ等の個々に合わせた食事形態となっている。食を促す声かけや食材に話をしながら楽しみの時間となっている。テーブル拭きや洗い物など出来る方にはして頂き、力量発揮の場面作りをされ、張りのある生活に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作る献立にて栄養のバランスを取り、減塩食なども提供している。水分摂取量や食事量も毎日チェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが自分で出来る方は声掛けをして見守り。必要に応じて、仕上げ磨きを援助。出来ない方には職員が口腔ケアを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を大切に、状況に応じた下着類を使用している。	個々の時間帯で誘導され日中はトイレでの排泄に努め、生活習慣を活かす事と、立位、座位をする事で機能維持に努めると共に気持ち良く排泄できる支援を心掛けている。自立の方は見守り対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操やストレッチにより便秘予防に取り組み、水分摂取が少ない方には好きな飲み物を代替えて水分補給に努めている。個々に応じた乳製品の摂取も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決めてはいるが、気分や体調に合わせて変更し、個々に合わせて入浴を楽しんでもらっている	週2回、時間帯は午前中となっている。順番の希望やシャンプー、ボディソープ等好みの物を使用され、できるだけ入浴が楽しみとなる支援を心掛けている。拒否の方には声かけの工夫やタイミングを見ながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の身体的活動を促して、生活リズムを整えて夜間熟睡が出来るように配慮している。体調や要望を考慮しゆっくりと休息が出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や用法はお薬手帳の内容を十分に確認している。症状の変化には毎日の健康管理において確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野でその方の力を発揮してもらえるように、出来そうな仕事を頼んでやってもらっている。個別レクで楽しみごとを増やしたり、好みの嗜好品を提供したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節により外出したり、日々の天気で窓際で日光浴をしたり、ドライブに出かけたりコロナウイルスを予防しながら外出支援をしている。	コロナ禍の為、以前の様には外出支援はできていないが、状況を見ながら感染予防を徹底し、ドライブやお花見などに出かけられ、季節感を感じてもらおう事と五感刺激となる支援に努めると共に室内行事を多く企画し、楽しんでもらっている。希望により事業所の周りを散歩する等、外気に触れる機会も持たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の利用者のほとんどの方は金銭管理が出来ないので、個人のお金は事務所で預かり管理をしている。必要に応じて要望があれば小口現金の中より、本人に現金を渡し買い物してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の携帯電話の取次ぎや、希望があれば家族や友人に電話の取次ぎもしている。手紙によるやり取りの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の壁に季節ごとのぬり絵や行事・外出した時の写真を貼り、ベランダには季節の花を植えている。	大きな窓からは穏やかな瀬戸内海が見渡せ、圧巻の景色が見られ、時々季節が感じられる。又、壁にはぬり絵等の作品や外出時の写真等も張られている。畳スペースもあり、広く、死角もなく、不快な匂いもなく、明るく快適に過ごせる共有の場であり、穏やかに過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自室でくつろいでいただき、気の合う利用者同士で談話したい時は食堂に集まる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で暮らしていた時の思いでの物を、居室へ持ってきてもらっている。	馴染みの家具(タンス、洋服掛け、)、ワゴン、テレビ等が多く持ち込まれている。又、思い出の写真、ぬいぐるみ、お花も飾られている。誕生日のメッセージ等も壁に飾られ、できるだけ自宅とのギャップが無い様な環境づくりをされ、違和感なく落ちついて過ごせる工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の入り口に案内版を設け、自室の前には表札を掛けて他人の部屋と間違えないようにしている。廊下や部屋の床は段差は無い。動線も広く直線で歩きやすい作りとしている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2/3くらいの				②家族の2/3くらいと
			③利用者の1/3くらいの				③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない			○	④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが			○	③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼすべての利用者が				
		○	②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30・31	コロナ感染予防	コロナ感染予防に最大限努める。体調不良の早期発見で、感染拡大を予防。	換気、消毒、職員や外部の方からの感染予防。 定期のバイタルチェックに加え、午前、午後共に検温や体調の変化を確認する時間を設ける。	1ヶ月
2	19・20	家族や外部の方との関わりが持ちにくい環境となっている。	家族との関わりが希薄にならないようにする。	家族との面会では感染対策を講じマスクを外した状態でしっかり表情を見て話してもらい、また、手紙や電話で状況報告を行い、必要に応じて電話の介助をし、写真で活動内容を見てもらうようにする。 コロナの感染状況に合わせた面会方法を取り入れる。	1ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。